

The Interview

「山形弁をしゃべるアメリカ人」として人気を博して以来、ユーモアとバイタリティあふれるタレントとして活躍中のダニエル・カールさん。育児番組の司会に抜擢されるなど、子育て熱心な父親としても知られています。「人生の優先順位は、仕事よりも家族」というダニエルさんの子育て論についてうかがいました。



ダニエル・カールさん

男の子育てメッセージ

アメリカでは家族を犠牲にしてまで働くという風潮はありません。

子育てが一つの社会問題になっていますが、いま子育て中の親たちはどんな悩みを抱えていると思いますか。
一人で子育てを背負い込むあまり、楽しくないと感じているお母さんが多いのではないのでしょうか。かつて僕の住んでいた山形では、まだ3世代家族も結構あるんだけど、都会では核家族が中心でしょう。父親は仕事で忙しいし、周囲に相談できる人がいないなかで、一人で子ども

も向き合っているのって結構つらいんじゃないかと思います。
それと、身近に子育てを学ぶ機会が少ないのに、情報だけが多いでしょう。それゆえに育児不安が広がっていると思うんです。赤ちゃんの頃の発達ってかなり個人差があるものなのに、育児番組に寄

子どもはかけがえのない存在。
父親だって子どもの成長を見守っていたい。

っていないから。働く場が家族の犠牲のうえに成り立っている。そこがほかの先進国と大きく違うところだと思えます。

アメリカではどうですか。聞くとところによると、家族を大事にしない社員は出世しないそうです。

確かにそういう傾向はありますね。家族を大事にする人は、仕事もできると評価されますから。

日本と大きく違うのは、家族を犠牲にしてまで働くという風潮がないんです。子どもが熱を出したなんて言おうものな

ら、早くかえりなさいと言われるし、妻の誕生日にぐずぐずしているかどうかの？と催促されてしまう。それでも経済大国なのだから。でもアメリカがそうなら、日本もできるはずだと思うのです。もちろん、こんな不況だからいろいろ難しい面もあるけど、手始めに家族のためのノー残業デーを積極的に取り入れていったらどうか。それにはまず国や市などが率先してやっていただかないと。そうすれば企業も変わらざるを得なくなるでしょう。

プロフィール◆1960年生まれ。モンロピア市カリフォルニア州U.S.A出身。高校時代、交換留学生として奈良県智弁学園に1年間在日。大学時代、大阪の関西外国語大学に学び、その後京都二尊院にホームステイ、佐渡島では文弥人形づかいの弟子入りをした。大学卒業後、日本に戻り、文部省英語指導主要助手として山形県に赴任し、3年間英語教育に従事。現在は東京に居をおき、翻訳・通訳サービス会社を経営。



父親も当たり前に育児にかかわれる社会にしていききたいですね。

日本の子どもにとって父親は「働く人」というイメージが強いと思うのですが、ご自身ではどんな父親でありたいと思っ

僕のおやじは消防士だったんだけど、アメリカで消防士といえば、カッコいいとされる花形職業の一つなんだよね。だけど僕にとっておやじはそれだけでなく、一番の心のよりどころでした。なぜか

それと家ではなるべく仕事以外の姿、たとえば料理をしたり掃除をしたりしている姿をみせるようにしていますね。息子には仕事をするだけの大人にはなっほしくないですから。
悲惨な少年犯罪があつたをたないなか、男の子の育て方に不安を持っている方も多いと思います。これから思春期を迎える息子の父親としてアドバイスがあればお聞かせください。

息子との関係で一番大事にしてきたのは心のケアです。結局、親が子どもにできることってそれくらいしかないと思う。だから時間さえあれば、しつこいくらい子どもの話を聞くようにしてきました。
特に男の子は大きくなるにしたがつて自分のことを余り話さなくなるでしょう。いざ親より友だちという時期がくるでしょうけど、その前にどんなときでもお前のことを見守っているよということを伝えたいと思います。思春期になって問題が起きてから、あわてて親子しまし

せられた相談の中にはちょっと歩くのや言葉が月齢より遅れただけで、心配しているケースがありました。
ご自身はどうですか。これまで父親としてどんなかわり方をされてきたのかお聞かせください。

確かに子育てで大変ですよ。いま11歳になる息子がいるんだけど、子どもが生まれたと同時に自分の生き方を見直しました。だって自分の子どもだもん。大変だけどかけがえのない存在じゃないですか。僕の場合、母親任せにはしたくなかったから、とにかく生まれたときから一生懸命かわるようにならしてました。うちの息子は夜なかなか寝ない子で、乳母車で散歩に出かけて寝かしつけたこともありました。当時、池袋に住んでいたんだけど、ネオンがチカチカ輝く街なかをきれいだね、なんていって歩いたりしてね。

ちょうど仕事が波に乗り出したときで目が回るくらい忙しかったんだけど、仕事を抑えてでも子どもとかかわる時間だけは削りませんでした。でもこれって、当たり前のことだと思いませんか。

だけど日本では、この当たり前のことがなかなかできないんですよ。父親が子育てに参加できるようなシステムになようと言っても、もう遅いですから。そしてもう一つ、子育てにおいても妻と夫が互いにパートナーとして認めあえる関係にあることが大事だと思います。それにはやはり子育てを妻まかせにしないこと。その一歩として、妻が抱えている問題を聞いてあげることからはじめてみてはどうでしょう。



子どもと向き合う姿勢を大事にしていきたい

通信員◆長岡和子さん

通信員レポート ダニエルさんのお話をうかがって

お子さんが生まれてから人生を考え直したというダニエルさん。最優先はもちろん家族。そんなダニエルさんが家族と一緒に時間をとるために何を犠牲にするのかといえば、友達とのおつきあいだとか。お誘いには「いま子育て中だからあと10年まっつね」といっているそうです。
子育てとは迷うことも多く、何が一番いい選択なのかその時にはわからないもの。すつとあとなつてあの時こうすれば良かったと思うこともあるでしょう。でも子どもが成長するにしたがつて、私（親）はあなた（子）といつも向き合っているという姿勢が大事ではないかと、あらためて思いました。

※通信員：公募により「You & Me〜夢〜」の編集に関わっている市民です。